
編集後記

皆さんの周囲でも同じでしょうが、施設内に木を植えたり、芝のある庭を作られていると思います。特に病院などの医療機関では患者さんのためにこうした緑に対し特別の配慮を行っているでしょうが、なぜこうした緑が必要なのでしょう。室内に置かれた鉢植えでは、人工のものも見受けられますが、屋外も含め、周囲の植物はすべて造花など人工の植物ではいけないのでしょうか。その方が、刈り込みや草取りなどの手間も省けます。現在の技術を使えば、相当に精巧な模造品を作ることができるでしょう。あるいは、窓や壁を大型のディスプレイに替え、大自然の風景を映し出すことも考えられます。それが動画であれば、SF映画のように、あたかも大自然の中にいるかの錯覚を作ることできます。しかし、現実には、手間がかかっても、また量的質的に劣っていても、人工物よりは本物の植物を選択することが多いと思います。それはなぜでしょうか。

見た目では人工物と本物を区別できないとすれば、二酸化炭素の吸い込みと酸素の放出が重要でしょうか。であれば、酸素を人工的に放出することも考えられますが、それもしい。広い待合室においてある植物による二酸化炭素の吸い込み量は僅かで、誰も期待はしていないでしょう。こう考えると、人間は、こうした本物の植物が周囲にあって「癒される」ことが重要なのではないか、と思うのです。しかし、その脳のメカニズムは解明されていないと思います。

では、植物以外ではどうでしょう。富士山を毎日肉眼で望めることにも何等かの感動を得ていると思います。富士山ばかりでなく、自宅や勤務先近くにそびえ立つ山々や自然の残る川の四季の変化を感じることから、人間の脳は、植物の場合の癒しに相当する何かを得ているように思います。特に険しい山の場合、肉眼で毎日眺めることによって、知らず知らずのうちに、内なる魂が掻き立てられているように思います。

こう考えると、人間は、人工物ではなく本物の自然から、魂にかかわる何らかの精神的刺激を受けていることとなります。植物や山、川だけでなく、海、空、雲、星も該当するでしょう。この視点は、今後も科学技術を発展させる上で、考慮し忘れてはならない点だと思います。人間の精神活動は、自然という「大きな手の平」の中にあるということでしょうか。

金井 浩

超音波医学

Japanese Journal of
Medical Ultrasonics

第40巻 第4号 (通巻第276号)

© The Japan Society of Ultrasonics in Medicine

—禁転載—

本体価格 2,100円 (税込み) (本誌購読料は会費に含まれます。)

平成25年7月15日発行

編集者 一般社団法人日本超音波医学会編集委員会 委員長 金井 浩

発行者 一般社団法人日本超音波医学会 理事長 竹中 克

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-23-1

お茶の水センタービル6階

TEL 03-6380-3711

FAX 03-5297-3744

印刷所 大村印刷株式会社